

報告



(社)日本技術士会北海道支部事業委員会

これから ～も北海道！ ～は北海道！ ～の北海道！

2009年2月27日 札幌ガーデンパレス

技術士（上下水道／総合技術監理部門） 飯野将徳

まえがき

今回の技術フォーラムは「北海道の今後の目指すところ」について、多分野にわたる技術士にお集まり頂き、有機的な連携の必要性とその役割に関して、意見交換をして頂くことになりました。

1. 支部長挨拶（大島支部長）



写真－1 大島支部長

はじめに、大島支部長より「今年で7回目を迎える本会ですが、いつも楽しい話題にあふれています。今日の話題である農業、食の問題というのは、北海道がこれからメインとして解決に取り組

むべき問題であり、環境、エネルギーの問題とあわせていいタイトルだと思います。」と、お褒めのコメント頂いた後、技術士会の公益法人化や、ECO検定の話、ECO推進について今後も北海道支部技術士会としても積極的にかかわっていきたい旨、お話を頂きました。

2. 一般課題

一般課題として、2名の技術士にご講演を頂きましたので、その一部を紹介いたします。

(1) 講演1「ウマイ Do.北海道ノ」

建設部門 大谷 高志

①男が料理をするとは

- ・男の料理人口：平成14年までの10年間で約8%増加(若い世代と60代)(インターネット調べ)
- ・アンケート調査結果の紹介「50・60代の夫の料理と妻の意識」(東京ガス㈱平成14年8月)

②素人の私が考える「食」とは

- ・飽食日本
- ・食料自給率
- ・日本の食の危うさ
- ・食品ロス
- ・「食」に関する提言(国産を使用しよ

う・賞味期限にこだわりすぎないように・食後に買い物をしよう)



写真－2 大谷氏

③趣味の料理の紹介

- ・料理を始めたきっかけは、趣味で行くキャンプでダッチオーブンに出会ったこと
- ・ダッチオーブンの特性と料理の紹介

(2) 講演2「特別講師のすゝめ(SCOT事業への取り組み)」

建設・総合技術監理部門 対馬 一男

①SCOT事業とは

SCOTとはサイエンス・コラボ・ティーチャーの略で「理科支援員等配置事業」と呼ばれるものである。独立行政法人科学技術振興機構(JST)が推進し、小学校5・6年生の理科授業に理科支援員や特別講師を配置し、授業における観察・実験活動の充実を

②活動事例の紹介

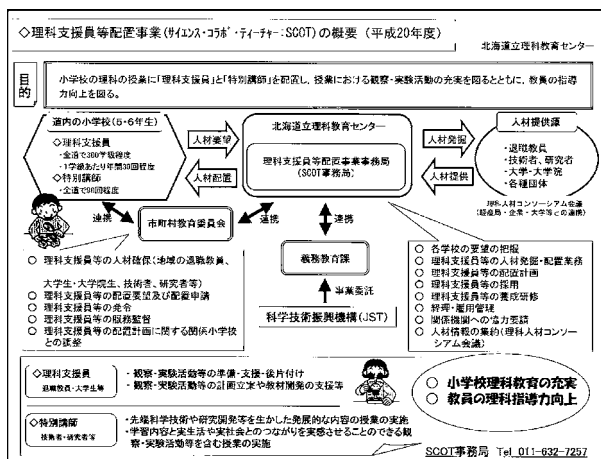


写真-3 対馬氏

(3 小学校)川の
授業、砂の液状化
実験

③特別講師の登録 と留意点

④特別授業実施の流れ



「今年はあなたも特別講師として小学校で授業を行ってみませんか。」

3. 特別課題

テーマ「これから～も北海道！ ～は北海道！
～の北海道！」

今回は、「北海道」という言葉をキーワードに、テーマを「これから～も北海道！ ～は北海道！ ～の北海道！」と題し、浅野氏、宮井氏、伊藤氏の3名の方々の話題提供から、討論会へと進めていきました。その一部を紹介します。

(1) 講演 1 「北海道の未来像」

北海道大学農学研究院 応用菌学 教授

生物学・総合技術監理部門 浅野 行蔵

～そろそろ偽装はやめましょう～

「北海道の食品は安心・安全」というイメージは
 本当か、技術士の観点から考える。

- ・食品衛生、食品表示、赤カビ毒、遺伝子組み換え等について考えると、北海道の「食」は安心とはいえない。
 - ・工業出荷額をみると、北海道では半分がアグリバイオだが、農地 10 アール当りの純生産は全国に比べると低い。
 - ・北海道の農業は本州と同じやり方ではいけない、大規模化が必要だということは昔からわかっていた。
 - ・「農業就業者が減少したから自給率が下がった」というマスコミ等の意見は間違いで、生産性は変わらない。
 - ・将来の農業には技術が必要とされるので、技術士は何らかの貢献ができないか。
- 
- 写真 - 4 浅野氏



写真-4 浅野氏

(2) 講演 2 「北海道の産業としての農業の現状と課題」

西南農場有限会社 代表 宮井 能雅

北海道の農業の現状と課題について、様々な写真や動画を用いて紹介。

- ・播種機械(麦)：撒きやすいが畑の管理が難しい。
- ・GPS：播種、農薬散布などでまっすぐ、思ったように撒ける。
- ・トラック
- ・コンバイン：技術、製品があるのに輸出



写真-5 宮井氏

のみで国内には出回らない。

- ・大豆の品質：国産は糖度が高く、外国産は油脂が多い。みかけがすべて。
- ・電力
- ・農業土木（暗渠）に画期的な技術の導入
- ・遺伝子組み換え作物

(3) 講演3「道産品の秘めた可能性」

建設部門 伊藤 龍秀

～北海道物産輸出のための海上輸送技術開発と市場調査 新分野に挑むマーケティング～

①この取り組みの理念・全体像

北海道の安全・安心な「食」、北海道ブランドを世界に向けて発信、北海道・日本の食文化の拡大、北海道地域経済の活性化への貢献

- ・ブランドとブランディング
- ・事業目標
- ・事業の視点

②個々の具体的な取り組み

(技術的側面、マーケティングの側面)

- ・取り組み例：ドバイ向けの高級食材の供給、生乳の冷凍技術の開発、活ホタテの輸送
- ・技術開発：コンテナ内部の情報をリアルタイム監視するための技術
- ・市場調査：①需要予測、市場規模の検討、②輸出促進のための食文化調査による品目の選定、③販売・輸出促進手法の検討



写真－6 伊藤氏の講演

③現在の状況と今後の取り組みについて

ドバイにおける五つ星ホテルでブッフェ方式による和朝食提供のデモンストレーション。

今後はさらなる技術開発と市場調査により、安全・安心・高品質な北海道物産を海外に輸出し、北海道各地の地域振興の一助となる活動を続けていく。

(4) 討論会

討論会は、浅野氏を中心に議論を進めて頂きました。話題は、宮井氏提案の「北海道で200haの農地をもって営農する」というテーマに議論が集中し、「合理化すると農家が半分になる」、「利益追求でよいのか」、「地域で生活するための限界集落の話題」など、会場から様々な意見が出されました。



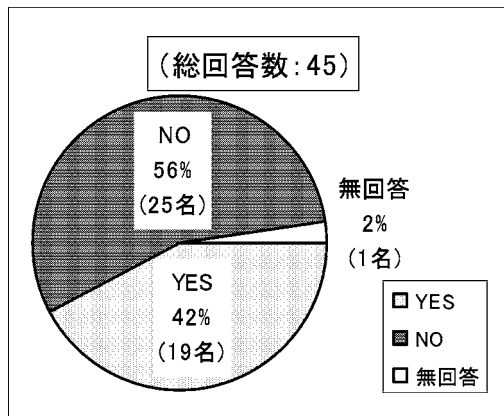
写真－7 進行役の鈴木氏、山崎氏、浅野氏

また、今回のフォーラムでは、会場に集まった100人近くの皆様にアンケートを配布し、その場でテーマに関する意見を記述して頂きました。さすが技術士の皆様、短い時間にスラスラと書き始め、多くの意見回収ができました。会場では一部をご紹介させて頂きました。

第7回技術フォーラムアンケート内容

- 【設問1】
北海道の農業の生きる道が、本日の発表のように200ha規模の営農の方向だと認識していましたか
- 【設問2】
あなたの分野で関連した技術はありましたか？(それを実現するために)
- 【設問3】
これからの北海道農業をより強くするために、技術士であるあなたにできる提案は何ですか？
(1)ご自分の専門分野ではどんなことが考えられますか
(2)あなたが考える他の専門分野ではどうですか？
- 【設問4】
農業問題を離れ、例えば環境やエネルギー問題など「これからの北海道」の諸問題に対し、技術士は何を考え、何をしていけば良いでしょうか？

●アンケート結果（抜粋）



【設問 1】の回答結果

【設問 2】

- ・エネルギー、自然エネルギー（建設部門）
- ・放牧酪農の推進と省力化に関する技術の復活と新技術（農業部門）
- ・大規模な農地と国土保全の関係、農地、河川、森林などの適切な配置の検討（森林部門）
- ・包装と物流の管理技術、印刷技術を応用した機能性材料（経営部門） など

【設問 3】(1)

- ・水資源開発（建設部門）
- ・下水処理場から排水される汚泥を原料とした肥料の使用（上下水道部門）
- ・輸送効率の向上、環境負荷を小さくする技術提案（建設部門） など



写真－8 意見は次から次へと…

【設問 3】(2)

- ・物流、市場開発
- ・農業分野と機械分野のコラボによる連携
- ・合理的な運搬方法の開発、種の改善（改良） など

【設問 4】

- ・他分野との情報交換
- ・雪対策、住宅地の融雪対策
- ・技術開発（省エネ、リサイクル、新エネルギー）
- ・教育

- ・居住地の集約化
- ・農業技術の海外移転、外国人労働者の導入、遺伝子組み換え技術の科学研究 など

4. 閉会の挨拶（中野委員長）

最後に、中野委員長よりご挨拶を頂きました。「長時間にわたってご参加頂きありがとうございました。

ひとつのテーマに多部門、横の連携で知恵を出し合うのがよいのではと思っ



写真－9 中野委員長

て今回の企画をしました。

討論会では白熱した様々な意見が出ましたが、もっとフランクに、冗談ばく話した方が、面白い意見が出たのかなぁと思っております。」

追記)

後半の情報交換会ではトークが白熱し、「技術士が



写真－10 バトル勃発？

んばれ！ 何をやとる！」の叱咤激励に、思わずバトル勃発の気配が…。次の瞬間「このぐらい盛り上げてガンバロウよ！」の言葉に幹事もほっと一安心。

白熱した意見交換会となりました。

実は今回の準備にあたっては、構想段階からなかなか思うように進まない、いやなパターンが続きました。しかし、そこはやはり「技術士」。ひとつひとつ問題を解決し、なんとか開催へと漕ぎつけたのですが…。当日も幹事の「冷や汗」が止まらないフォーラムとなりました。これも経験。次回に生かせるかな？



写真－11 H 20 幹事団

「技術士がんばれ！」